

「172のころ」

7月末に新入児を迎え、さらに賑やかクラスがスタート！！
新しく入園したYくんが最初に登園した日、初めて見る友だちに「だれ〜？」と、不思議そうに保育者に尋ねるちゅうりっぷ組さん。でも、「今日から新しいお友だちと一緒にすごすよ〜」の言葉かけだけで、クラスの雰囲気はいつもと何も変わらず、Yくんも自然と遊びに溶け込んでいました。

数日後、お休みしていてYくんがいることを知らなかったIくん「新しいお友だちがいるんだよ」「Yくんだよ」と、伝えると「ん？Yくん？」と、言いながらYくんのそばに向かい、顔を覗き込んで笑いかけていました。その後、ホールに遊びに行くために「お友だちと手を繋いでね」と、みんなに声をかけると、すぐにYくんの所に行き、手を取るIくん、そしてそのIくんの手を何も言わずに受け入れて手を繋ぐYくん。ふたりの姿に心がポカポカ…♡♡♡

そんな子どもたちだからこそ、自然に溢れ出るやさしさに包まれ、認め合い、自信を持ち、言葉や行動で自分を表現することができるのだろうか…と、これからのちゅうりっぷ組の子どもたちの心身の成長への期待がさらに高まりました。



日々の遊びは宇宙だ。はりの4歳児さん! 見るものすべてが宇宙につながり、子どもたちのイメージはどんどん広がります。イメージするから新しいものがうみだされ、世界が広がっていくのです。イメージは、想像力や創造力、社会性などのベースとなる大切なもの。思いやり、の土台も想像力です。ね。私たち大人も、子どもたちのイメージの世界に入り込み、一緒に楽しむことで、一人ひとりの自由で豊かな想像力を伸ばしていくことができれば、これから生きる子どもたちのスキルの一つとなるかもしれません。

あっという間に8月となり、お盆の時期になりました。ご先祖様をお迎えする準備や親せきでの集まり等、何かとお忙しい時期かとお察しします。

この時期に私がふと思い出すのは、「故郷」という言葉です。保護者様のなかには、県外から嫁いで来られたり、お仕事の都合で武雄に来られたり等、故郷から離れて子育てをされている方も少なくないのではないのでしょうか。なかにはちょっと帰りたいな、と思ってもすぐに帰ることができる距離ではない方もいらっしゃるかも知れません。

皆様が「故郷」と聞いて連想するものは何でしょうか。もしかしたら、場所以外のことを想うかも知れません。私にとっての「故郷」は、寒い冬の夜に「りさちゃんの足は冷たいの。」と言って自分の足を私の布団に入れたまま、絵本を読んでくれた祖父の声と、皺が入った頑丈な温かい手と、ページをめくる乾いた指の音です。いつまでもその時間が続いて欲しくて、わざと世界童話全集のような厚い本を選んで祖父に差し出し、「何て幸せなんだろう」と思いながら眠りについていたので思い出します。

園に来た新しい木製のベンチでいつも絵本を読んでいる親子の姿を目にする度、あの夜を思い出して温かな気持ちになります。この子たちにとって、この時間がいつの日か「故郷」になるのだろう、と。

なかなか里帰りできない、または、もしかしたらもっと遠くに、会いたいのに会えない人がいる保護者の方々。皆様は一人ではありません。大切に大切に育ててくれた、あの人を想うだけで、いつでも「故郷」はすぐ傍にあることを、ぜひ忘れないでいて下さい。

そしてもちろん、その「故郷」は、あの時の懐かしい温度をそのままに、いつまでも皆様の支えとなり続けることも。今年のお盆は、それぞれの「故郷」を想って過ごしてみませんか。

